

巻頭言

就任挨拶

所長 内藤 幹子
Mikiko Naito

前任の石渡浩司先生の後継として、2023年4月より当研究所所長に就任致しました、内藤幹子（経営学部所属）と申します。これまで当研究所の働きをリードしていただきました先生方の後ろ姿に学びつつ、同僚の先生方や事務局スタッフの皆様と共に引き続き豊かな活動を展開してまいりたいと願っております。どうぞ今後とも宜しくお願い申し上げます。

わたくしが関東学院大学との関わりを頂くきっかけとなりましたのは、2011年度より当研究所「バプテスト研究グループ」の客員研究員に加えて頂いた事であり、その頃より学内外のバプテスト研究に携わる方々との出会いと、得難い学びを数多く頂いてまいりました。キリスト教には様々な教派やグループがありますが、中でも「バプテスト」の研究者ならびに教会人として人生の歩みを進めてきた者が、日本の中で「バプテスト」の伝統のもとに発展を遂げてきた関東学院という場所に働きを与えられたことを、本当に大きな恵みとして改めて感謝するところであります。「バプテスト」というキリスト教の一教派は、簡単に申し上げるならばいわゆる「宗教改革」のムーヴメントが先鋭化する傾向の中で次第に生まれ形を成していった群れと表現することができるでしょう。当時、何の疑いもなく「自明」の事柄と受け取られていた社会構造や習慣、キリスト者の信仰の内実やキリスト教会の在り方を、改めて『聖書』に聴きつつ根本から見つめなおすという課題を自ら背負ったのが「バプテスト」でありました。そしてそこから、あらゆる「権威」「制度」による強制を受けることなく、自らの意志をもって「キリスト者となること」「教会の構成員となること」を決断する人々により「バプテスト」の群れが形成されていくこととなります。群れの構成員の間に「上下・主従関係」は存在せず、すべての構成員は神の前に等しく「教会」を形成する「権利」「責任」を有するものとなります。各個教会は他者から支配・干渉されることのない「自立」した存在でありながら、他者との幅広く自由な「協力・共働・対話」を喜びます。もちろん関東学院も当研究所も「キリスト教」というものを「バプテスト」のみに限定的に紐づけているわけではありませんし、「バプテスト」のみを「良きもの」と主張する意図もありません。しかし、「バプテスト」が元来重視してきた理念のうちに、関東学院ならびに当研究所の在り方・生き方に資する「良きもの」は、確かに含まれていると感じております。

2023年度、当研究所は1研究プロジェクト・8研究グループ・3委員会を擁して活動を始めております。その中でも「キリスト教保育を哲学する研究グループ」「横浜・関東学院・キリスト教研究グループ」は新たに立ち上げられ、それぞれ既に意欲的に活動を進めているところであります。今後、これらの研究活動の実りをご紹介する運びになります際は、どうぞ大きなご関心とご期待をお寄せください。

「キリスト教保育を哲学する研究会」

熊田 凡子 (教育学部)
Namiko Kumata

「キリスト教保育を哲学する研究会」担当の教育学部の熊田凡子です。

本研究グループは、「キリスト教保育とは、どのような意義があり、どのような考え(思想)が通底しているのだろうか」、こうした問いに基づき、キリスト教保育の歴史、および思想に関する人間学的教育学的研究を行うこととし、詳しくは、キリスト教保育・教育に関する専門書の文献講読の勉強会、及び専門家の講座による学び合いと現代的課題の議論的交流会を行い、キリスト教保育について哲学することを主たる目的とし活動しております。



今年度は、特に「キリスト教保育の歴史と思想の研究」をテーマにキリスト教保育の思想について、その源流に立ち戻り、歴史資料及び専門文献の講読演習を行い、通史的に言及されてきた事実に通底してきた人間観、教育観等を検討することといたしました。キリスト教保育の意義、また子どもの信仰心、女性宣教師の働きについて、詳細に探究することを目的とし開始しております。現在メンバーは、私を含めて、女性3名で、ゆっくりと丁寧に文献を講読し、現代教育・保育・福祉・社会における課題と併せて論議をすることを中心にしております。

2023年度上半期は、近代日本のなかでも、主に明治期のキリスト教保育において、いかなる児童福祉活動(保育所や孤児院など)を行っていたのか、その源流を明らかにするとともに、プロテスタント教会(主にアメリカ)やカトリック修道院(フランスなど)から日本に派遣された女性宣教師や修道女たち、また日本人福祉事業家らが携わった保育所や孤児院等での福祉活動の実態を把握することにしました。

なぜなら、これまでキリスト教保育の通史的検討が、プロテスタントの幼児教育の歴史が中心でされてきたため、プロテスタントとカトリックいずれも含むキリスト教保育における福祉活動の歴史的意義が言及されてこなかったからです。日本の幼児教育史やキリスト教保育史の草創期においては、主にアメリカ・プロテスタント系女性宣教師によって設立されたキリスト教主義幼稚園・保母養成機関が、当時模範とされていた官立の女子高等教育機関である東京女子師範学校(附属幼稚園)の教育に並び、幼児教育・保育者養成を先導しその後も啓蒙的な役割を果たしたと言われてきました。それは、近代日本の幼児教育が創始期より官立においても私立のキリスト教主義においても幼稚園と保母養成の2系統の働きによるものと認識されてきたことによるものであり、さらに当時の女

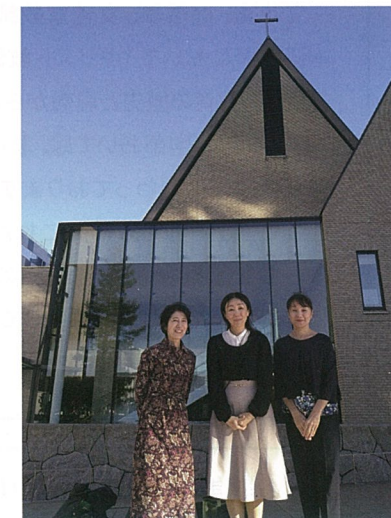
性宣教師の幼児教育・保母養成に関する研究組織であった Japan Kindergarten Union (J.K.U.)が、幼児教育・保育を支えるより高い教養を絶えず学び、質の高い保育者を養成してきたという通史的言及がなされ、日本の幼児教育史及びキリスト教保育史に位置付けられてきたことによるものだと考えられます。

ところが、本研究会において、近代日本のキリスト教保育のプロテスタント系保育所や孤児院での保育(養護・教育)いわゆる福祉活動について確認していく中で、そうした事実や実態は紹介されてはいるものの、キリスト教幼児教育の展開における補完的な位置付けとしてしか言及されていないことが分かってきました。また一方で、カトリックの宣教開始の前史及びその後の系譜におけるカトリック系の保育所や孤児院での福祉活動については、プロテスタント系よりいち早く司祭や修道女たちが学校や保育所、孤児院を設立運営してきた事実はあるものの強調されず、キリスト教保育史においては断片的な前史のみの言及に留まり、プロテスタントとカトリックを併せた通史的言及が明確に位置づけられてこなかったことが明らかになってきました。

このように、本研究会の今年度の取り組みでは、プロテスタントとカトリックの先駆的な児童福祉活動(保育所や孤児院など)の目的や特徴、及び当時の日本の社会背景を明らかにすることで、キリスト教保育のみならず近代日本の幼児教育・保育の発展史に新たな知見を加えることを目指し、当時の実態から検討しています。

なお、本研究会は、月に1度 Zoom 形式での検討会を行っていますが、時折メンバーと教会や大学図書館等に訪問し調査研究をしています。キリスト教保育の歴史と思想を中心にした研究会ではありますが、教育実践、教育哲学、児童福祉、教師・保育者養成等の領域を含めて、理論的実践的に人間学研究をしております。メンバーの各々の個人研究活動も併せて本研究会の活動を広い目で捉えることを目指しております。どうぞ本研究会をお覚えていただけましたら幸いです。よろしくお申し込み申し上げます。

写真・富士見町教会にて2023年10月22日
研究会メンバー：左より菅原陽子、熊田凡子、小林恵子



石井 充(人間共生学部)

Mitsuru Ishii

人間共生学部の石井充と申します。主たる研究分野は、数値シミュレーションによる社会分析で、SNSの様相やその時間的変動に関する定量的な研究を行っています。

かなり前のことになりますが、新約聖書に出てくる、テサロニケ、エペソ、ローマなどに行ったことがあります。それぞれ、歴史が感じられる素晴らしい場所でした。

私は、講義の一環で、毎年、横浜の山手地区を見学しており、その際に、関東学院発祥の地も訪れています。昨年度までは、「大学からこんなに離れた場所に発祥の地があるとは」と驚く学生が多かったのですが、関内キャンパスに移転してからは、そういう声は少なくなりました。右の写真は今年度に、関東学院発祥地の碑前で撮影したものです。



関内キャンパスでは、日常的にキリスト教に触れられる場面が少なくなったかなと感じています。日々の生活の中でキリスト教を感じられる機会を多く学生に提供するにはどうしたらよいか、考えながら講義をしています。



熊田 凡子(教育学部)

Namiko Kumata

教育学部の熊田凡子(くまたなみこ)と申します。

今年度よりは、本研究所所員として携われますことをとても嬉しく存じます。

私の専門分野は、教育学で、なかでも乳幼児教育学、教育史、教育思想・哲学の領域で活動を進めております。これまでは特に、教育実践史研究を中心に取り組み、日本のキリスト教保育の実態を源流から展開過程に迫り今日の幼児教育史研究に資することを目的としてきました。その成果として、『日本におけるキリスト教保育思想の継承—立花富、南信子、女性宣教師の史料を巡って』(単著、教文館、2022年)があります。現在は、本研究所において「キリスト教保育を哲学する研究会」を設け運営させていただいております。このように教育の歴史と思想から、現代教育を問う、ということが私の研究主眼です。

また、教育学部においては、私のキリスト教主義幼稚園での教育実践の経験を用いながら、教育・保育者養成に関わっております。授業の本質にも問いを持ちつつ、自己探究をしております。「子どもたちは学者である」、これが私の研究のはじまり、起点です。人間は生まれながらにして自らの経験を重ねていきます。どの子ども(人)にも備えらえた賜物があります。そのような見方、考え方を学生たちと共に哲学していきたいと希望し、日々与えられる務めに努めております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

関東学院大学 キリスト教と文化研究所

〒236-8501横浜市金沢区六浦東1-50-1

TEL: 045-786-7873 (研究所直通・月~金9:30~17:00)

FAX: 045-786-7806 (研究所直通・24時間受付)

発行者: 内藤 幹子

Director: Mikiko Naito